

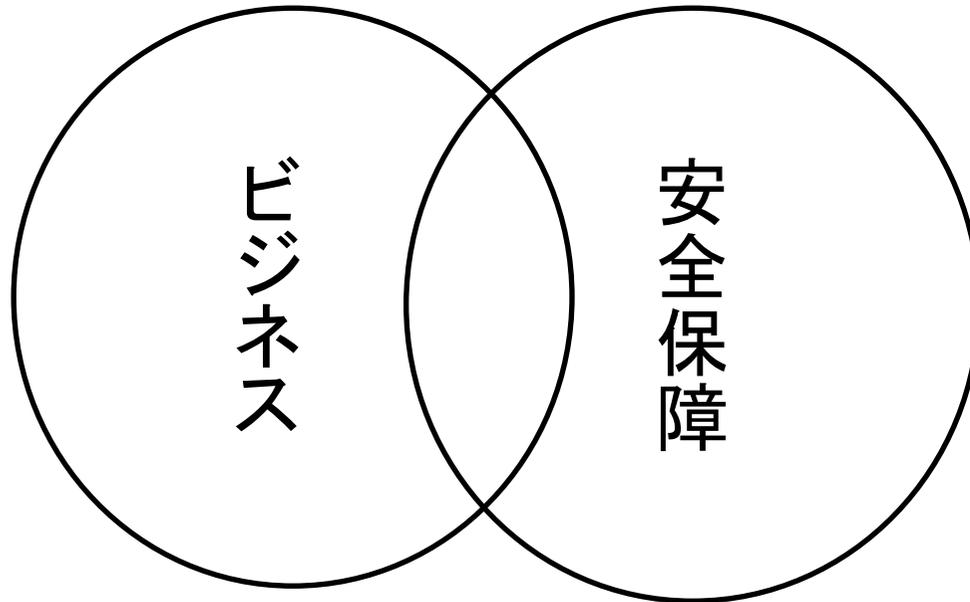
鳥瞰的アプローチから考える 産業安全保障問題

村山裕三

2013年3月2日@安全保障貿易学会

産業安全保障とは？

- 産業(ビジネス)と安全保障が重なる領域
- 3つの軸: ① issue ② country ③ player



Issue 1 輸出管理

- 産業安全保障一国の安全保障のために、実業界は自由貿易の原則に反して、輸出を規制する必要性
- ココム(冷戦)型から不拡散型への推移
- 国際レジームと日本の対応
- 課題(第1セッション)

Issue 2 外資規制

- 産業安全保障一国の安全保障のために、実業界は自由貿易の原則に反して、外国への投資や海外からの投資を規制される
- 米国のエクソン・フロリオ条項
- 日本では外為法により規制、2007年に両用技術を視野に入れて見直し
- 次の栗原氏の発表

Issue 3 ビジネスに絡んだ技術流出

- 産業安全保障－会社からの技術流出が安全保障目的に流用される場合
- 社員からの技術流出：例) ヤマザキマザックの中国人社員による技術情報流出－政府関係者との接触？
- 合併や提携を通じた技術流出：例) 新日鉄住金からポスコ(韓国)への製造技術流出、この技術が中国へ
- 退職者を通じた技術流出
- スパイ活動による技術流出：2007年米中経済安全保障検討委員会「中国のスパイ活動は、米国の技術にとっての最大の脅威」

Issue 4 防衛産業技術基盤

- 産業安全保障－防衛産業の競争力が、国の安全保障を左右する
- 軍民両用技術の防衛分野での活用
- 「安全・安心」分野(テロ、サイバー攻撃、新興感染症など)における民生技術の活用

鳥瞰的アプローチ(1)

issue を country から見ると

- Issue × 中国
 - 1) 輸出管理: 課題はあるが、法律的枠組あり
 - 2) 外資規制: 課題はあるが、法律的枠組を整備
 - 3) ビジネスからの技術流出: 統一的な方策は確立されていない
 - 35%の企業が、情報漏洩・疑いを持つ(主要148社、2012年日経調査)
 - 退職者と秘密保持契約を結んでいる企業: 大手6割、中小3割にとどまる

Issue × 中国から見えてくること

- 技術流出 × 中国
- 経済分野にとどまる技術流出か？安全保障分野にまで及ぶ技術流出か？
- 中国企業のガバナンス構造の問題－国営企業、大企業の経営陣に共産党員が含まれる（華為技術 (Huawei) 問題）
- 経営陣の中の共産党員の役割は？－研究が進んでいない分野

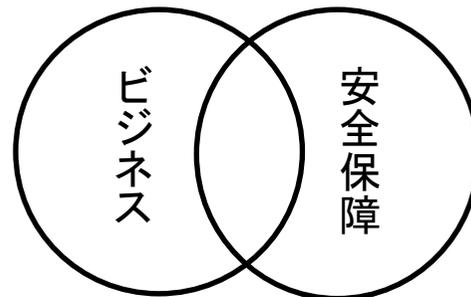
鳥瞰的アプローチ(2)

issue を player から見る

- Player: 政府、企業、大学
- Issue × 大学
 - 1) 輸出管理
 - 理工系学部における輸出管理の必要性
 - 3) 技術流出
 - 留学生問題: 軍事転用可能な基礎知識を教えてもいいのか?

Issue × 大学から見えてくること

- 輸出管理、技術流出 × 大学
 - 大学の特殊性：学問的自由、成果のオープン発表など
 - 理工系だけの問題か？社会科学系は？
 - ビジネス教育の中の安全保障教育は？



同志社ビジネススクールの試み

- 「企業の社会的・国際的役割」
 - ・輸出管理、安全・安心問題、リスク管理など
- 「国際関係と経営戦略」
 - ・外資規制（富士通・フェアチャイルド事件、Jパワー・TCIなどの事例）
 - ・日中関係とビジネスリスク（尖閣問題と破壊行為のインパクト、リスク回避策など）

鳥瞰的アプローチ

- セキュリティー・ホールを見つけ出すのに有効：輸出管理、外資規制、ビジネスのどこを通じて流失？ 相対的重要度は？
- 欠けている部分の修復方法：他の分野からの知見の活用－外資規制見直しの際に輸出管理手法を活用